

いしかり
博物誌
140



寄り鯨の地名

今は字名の改正などで一部しか残っていませんが、石狩市付近の海岸には、「寄り鯨」に係する地名がありました。「寄り鯨」とは何らかの理由で浜辺に漂着するクジラのことです。地名は厚田区押琴、石狩浜、新港東4丁目、銭函5丁目の4カ所にありました。このうち石狩浜を除いてアイヌ語に由来する地名です。

まず厚田区押琴はアイヌ語の「オソロコチ（お尻のくぼみ）」がもとの形でしょう。これはすり鉢

かっただけです。「鯨塚」（新港東4丁目）は明治半ばごろから地図に掲載される日本語の地名です。今も三角点の名前として残っています。クジラを祭る「鯨塚」は道内では珍しい存在ですが、寄り鯨があり、ここにそのクジラを祭る鯨塚が作られたためできた地名でしょう。

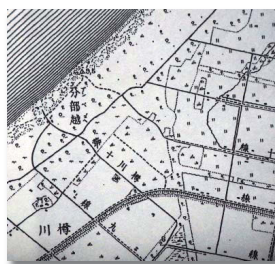
銭函5丁目にあった「フンベオマイ」はこのほかに「ヘンベマイ、フンベマイ、フンベコエ」などとも書かれる地名です。石狩浜の「フンベロマイ」と同じく「フンペ・オマ・ナイ（クジラ・いた・沢）」がもとの地名であったと考えられます。この地名は嘉永2（1849）年の絵図に「ヘンベマイ小休番家」と出てくるのでこのころからの地名だと考えられます。最終的には「分部越」の漢字となり、その後、銭函5丁目になりました。（石橋孝夫）



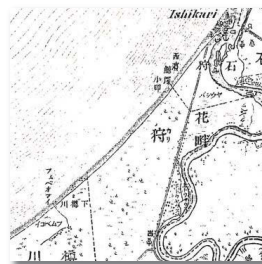
押琴 神様のお尻あと



フンベロマイ
（文政4年伊能図）



分部越（昭和12年）



鯨塚 フンベオマイ
フンベコエ（明治20年）



石狩市学芸協力員
石橋孝夫 Takao Ishibashi

専門分野は考古学と石狩史。石狩紅葉山49号遺跡の発掘を手がけたほか、縄文時代から江戸時代に至るサケ漁の方法や文化について研究する。

ERIS 「いしかり博物誌」は、えりすいしかりネットテレビ（<http://www.i-eris.tv/>）でもご覧いただけます。